

別紙 1

・ 文部科学省作成資料から引用

各資格・検定試験とCEFRとの対照表

文部科学省（平成30年3月）

CEFR	ケンブリッジ 英語検定	実用英語技能検定 1級-3級	GTEC Advanced Basic Core CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W
C2	230 200 (210) C2 Proficiency			9.0 8.5				
C1	199 180 (190) C1 Advanced	3299 2600 (2630) 1級	1400 1350 (1400)	8.0 7.0	400 375	800	120 95	1990 1845
B2	179 160 (170) B2 First	2599 2300 (2304) 準1級	1349 1190 (1280) C1	6.5 5.5	374 309	795 600	94 72	1840 1560
B1	159 140 (150) B1 Preliminary	2299 1950 (1980) 2級	1189 960 (1080) C2	5.0 4.0	308 225	595 420	71 42	1555 1150
A2	139 120 (120) A2 Key	1949 1700 (1728) 準2級	959 690 (840) Basic		224 135	415 235		1145 625
A1	119 100 (100) 各試験CEFR 算出範囲	1699 1400 (1456) 3級	689 270 (270) Core					620 320

○ 表中の数値は各資格・検定試験の定める試験結果のスコアを指す。スコアの記載がない欄は、各資格・検定試験において当該欄に対応する能力を有していると認定できないことを意味する。
※ ケンブリッジ英語検定、実用英語技能検定及びGTECは複数の試験から構成されており、それぞれの試験がCEFRとの対照関係として測定できる能力の範囲が定められている。当該範囲を下回った場合にはCEFRの判定は行われず、当該範囲を上回った場合には当該範囲の上限に位置付けられているCEFRの判定が行われる。
※ TOEIC L&R/ TOEIC S&Wについては、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアで判定する。
※ 障害等のある受検生について、一部技能を免除する場合等があるが、そうした場合のCEFRとの対照関係については、各資格・検定試験実施主体において公表予定。 1

・ 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会HPから引用

TOEIC® Program各テストスコアとCEFRとの対照表

CEFRはヨーロッパで作成された外国語学習者の習熟度レベルを示すガイドラインとして、欧米で幅広く導入されてきています。A1～C2までの6段階の言語力レベルのうち、TOEIC TestsではおおそA1～C1程度の英語力、TOEIC Bridge TestsではおおそA1～B1程度の英語力を測定できます。

CEFRレベル*		TOEIC L&R		TOEIC S&W		TOEIC Bridge L&R		TOEIC Bridge S&W	
		Listening	Reading	Speaking	Writing	Listening	Reading	Speaking	Writing
Proficient User	C1	490～	455～	180～	180～				
Independent User	B2	400～	385～	160～	150～				
	B1	275～	275～	120～	120～	39～	45～	43～	43～
Basic User	A2	110～	115～	90～	70～	26～	34～	37～	32～
	A1	60～	60～	50～	30～	16～	19～	23～	20～

※ CEFRとはCommon European Framework of Reference for Languagesの略称で、ヨーロッパ言語共通参照枠などと訳されます。欧州内の人材流動化にともなって、人材の適正な言語力評価を欧州統一基準で行う目的などから作られた枠組みです。
※ 数字はそれぞれのレベルに対応する最低スコアを示しています。

- ・ブリティッシュカウンシルHPから引用

CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）

「外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR: Common European Framework of Reference for Languages）」は、言語の枠や国境を越えて、外国語の運用能力を同一の基準で測ることが出来る国際標準です。

CEFRは、学習者、教授する者及び評価者が、外国語の熟達度を同一の基準で判断しながら、学び、教え、評価できるように開発されました。CEFRの等級はA1、A2、B1、B2、C1、C2の6段階に分かれており、その言語を使って「具体的に何が出来るか」という形で言語力を表す「can-do descriptor」を用いて分かりやすく示しています。2020年改訂の学習指導要領においてもCEFRについて言及されています。

外国語の熟達度を表すCEFRの等級には、コミュニケーションの状況や話題、人が行う行為、目的に関する分析のほか、コミュニケーションに用いられる能力について等級別の解説も記載されています。そのため、単に言語の熟達度を示すことに留まらず、教員研修や、教育課程の改革、教材開発等においてCEFRがますます用いられていると考えられます。

CEFRは欧州評議会（@Council of Europe）によって、20年以上にわたる研究と実証実験の末に開発され、2001年に公開されました。現在では日本語を含む40言語で参照枠が提供されています。また、CEFRは言語資格を承認する根拠にもなるため、国境や言語の枠を越えて、教育や就労の流動性を促進することにも役立っています。

段階	CEFR	能力レベル別に「何が出来るか」を示した熟達度一覧
熟達した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

別紙2

岐阜大学基金特定事業「バロー・Vドラッグ海外研修奨学金助成事業」

派遣先地域による奨学金月額

地 区	地域名・都市名
A 地方 奨学金額： 120,000円	【北米】 北アメリカ大陸（メキシコ以南の地域を除く。）、グリーンランド、ハワイ諸島、バミューダ諸島及びグアム並びにそれらの周辺の島しょ（西インド諸島及びマリアナ諸島（グアムを除く。）を除く。） 【欧州】 ヨーロッパ大陸（アゼルバイジャン、アルバニア、アルメニア、ウクライナ、ウズベキスタン、エストニア、カザフスタン、キルギス、グルジア、クロアチア、スロバキア、スロベニア、タジキスタン、チェコ、トルクメニスタン、ハンガリー、ブルガリア、ベラルーシ、ポーランド、セルビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、モルドバ及びロシアを除く。）、アイスランド、アイルランド、英国、マルタ及びキプロス並びにそれらの周辺島しょ（アゾレス諸島、マデイラ諸島及びカナリア諸島を含む。） 【中東】 アラビア半島、アフガニスタン、イスラエル、イラク、イラン、クウェイト、ヨルダン、シリア、トルコ及びレバノン並びにそれらの周辺の島しょ 【都市】 シンガポール、モスクワ、アビジャン
B 地方 奨学金額： 80,000円	A 地方以外の国・地域及び都市

※地区の区分は「東海国立大学機構旅費規程」による。